日刊 動労千葉

87. 8. 28

No. 2640

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

国鉄「分割・民営化」反対！三里塚二期工事阻止！

『国労方針を守ることは解雇』？

勝共連合と同盟し、『日の丸』を掲げた鉄道労連解体へ！

革マル鉄道労連がいよいよその本性をあらわにしている。もとより、革マル鉄道労連がいかなる意味でも労働組合などではないことはすでにあまねく周知の事ではあるが、今日彼らは完全に極右翼のファシスト集団に純化しようとしているのである。これは誇張でも何でもない。この間、彼ら自身が自らの言葉で語っていることなのだ。

特高警察や甘粕大尉の思想だ

とりわけ、この間の「東鉄労高崎」の「主張」は、まさに産業報国会以上の産業報国会とも言うべきものである。その「主張」とは、国労高崎の仲間が出向反対のビラまきを行ったことに対してのものであるが、以下の通りである。「高崎運行部経営陣は、こうした違法行為（注・出向反対のビラまきをさしてこう言っている!!）を二度と繰り返さないために就業規則第一四一条の規程により懲戒解雇すべきです」「妨害集団（注・国労のこと）が差別されるのは当然です。平等に扱うことこそ差別です」「国労方針を守ることは懲戒解雇を受けることです」「会社批判は労働運動ならざるもの」・・・まさに驚くべき主張である。

〃ビラまきをしたら解雇しろ！　国労組合員であるというだけで解雇しろ、差別などあたりまえ、会社批判は一切まかりならん――まさにこれは社会主義者であるというだけで虐殺や暗殺をほしいままにした特高警察や甘粕大尉の思想である。

革マル鉄道労連はファシスト団体だ！

そしてこれは、革マル副議長（断じて現在もそうである！）松崎自身の思想である。最近、松崎が自らの考えを世見に明らかにする時にもちいるのは、勝共連合機関紙「世界日報」である。勝共連合は、誰しも記憶に新しい通り、集会を禁止されたからと広島大学部長を惨殺した集団である。朝日新聞襲撃、虐殺事件も勝共連合がかんでいると言われているのだ。ちなみに、勝共連合事務局長は、元革マル派幹部である。これこそが革マル松崎の正体なのである。

松崎は「世界日報」のなかで「労働組合が日の丸（＝天皇制）を掲げないのはおかしい」と主張し、それを再確認するように「公益企業レポート」のなかで「管理者が組合に入ることによって階級的だとか右とか左とかそういうものが完全になくなる土壌ができた」「日の丸の旗と会社の旗と組合の旗が一緒になってもいい・・・世の中のためになる。そういう団体になればいい」とまで述べているのである。

まさに革マル鉄道労連とは、勝共連合と同じ、否より悪らつな極右・ファシスト団体、ファシスト労働組合である。

そして、このことを承知しながら、革マル松崎と手を組んだJR当局もまた同罪だといわなければならない。悪魔と手を組むものは、また悪魔である。

鉄道労連の分裂は不可避

鉄道労連の分裂は不可避である。そもそも鉄労は、その解散大会に民社党元副書記長・和田春生を呼んで講演させ、松崎や動労の指導部が今もなお革マルであるということを肝に命じておこうということを全体で確認しているではないか。

一見、強圧的に見えるJRの労務政策も実はかくのごとき、鉄道労連革マルを唯一の同盟者としてなりたっているにすぎないものである。ここにこそ「四・一分割・民営化体制」の最大の危機があるのである。こんなものは、早晩必ず破産することは間違いない。

強制出向反対のスト権確立を武器に、自信と確信をもって突き進もう。鉄道労連を解体せよ！

「8・29総決起集会」へ結集しよう。

速報

動労水戸地本が鉄道労連脱退、新労組結成

（裏面に結成宣言掲載）

動労水戸地本は、二七日、大会を開き、

一　地本は解散しない

二　鉄道労連を脱退する

三　強制出向に反対する

などを骨子とする方針を確認し、新労組結成大会を開催し、独立を宣言した。

本部派遣としてきた革マル城石などはなすべもなく帰った。

詳細は別途報告するが、動労千葉に続く地本ぐるみの決起である。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！